

御坂山地西部・四尾連湖周辺に形成された地すべり性堰き止め湖沼 Late Pleistocene to Holocene landslide dammed lakes formed around Lake Shibire, Misaka Mountains, central Japan

鈴木 輝美^{1*}; 荻谷 愛彦²

SUZUKI, Terumi^{1*}; KARIYA, Yoshihiko²

¹ 専修大学・院, ² 専修大学

¹Graduate School of Senshu Univ., ²Senshu Univ.

山梨県御坂山地に位置する四尾連湖(標高 890 m)について、演者らは地形・地質情報に基づきその成因と形成年代を昨年議論した(鈴木ほか 2014 JpGU; HDS29-P06)。すなわち、四尾連湖は約 47 ka ごろ生じた地すべり性の凹地が湛水して 1 つの湖盆(古四尾連湖)として発生したのち、二次地すべりにより 2 つ(以上)の水域に分断し、水域の 1 つは現四尾連湖に継承され、他方(古湖沼 A; 現四尾連湖の東方約 400 m 付近)は最低約 15 ky 程度存続して消滅したというものである。本大会では、消滅した古湖沼 A に関する新たな年代測定値と、その後発見された別の湖沼堆積物について報告する。

古湖沼 A の堆積物(全層厚 9.6 m)について、従来は基底付近の木片から 47-46 cal ka を得ていたが、新規に 2 点の年代測定を行った。古湖沼 A の存続期間や消滅時期をさらに正確に議論するため、試料は湖成層の中部(PLA-m; 木片)と最上部(PLA-u; 腐植質シルト)から得た。この結果、PLA-m は 42-41 cal ka, PLA-u は 3.1-3.0 cal ka であった。PLA-m と PLA-u の間には堆積間隙が生じていることも考えられるが、古湖沼 A は従来考えられていたよりもさらに長期にわたり存在していた可能性がある。ただし、PLA-u で示される完新世後半には、水域というよりも湿地や幅の広いチャネルとして存在していたことも考えられる。古湖沼 A が消滅した理由は詳らかではない。

現四尾連湖の南方約 1 km 地点から新たに湖沼堆積物が見いだされた。同堆積物は標高約 700 m の等高線に沿って水平に分布し、目下 4 地点で観察される。西側(下流側)ほど層厚が増すが、いずれの地点でも木片や泥炭(一部では直径 50 cm 以上の大型樹幹)を含む厚さ 1 m 以上のシルト・砂礫互層からなる。また湖沼に流れ込んだと思われる地すべり堆積物・土石流堆積物が湖沼堆積物を覆ったり、切ったりする様子も確認される。全層厚や分布について不明な点があり、年代資料も得られていないが、現在の標高 700 m の等高線から復元される水域面積は約 0.05 km² である。この湖沼堆積物に関係した水域を、便宜的に「古湖沼 B」とよぶ。地形判読と踏査によれば、古湖沼 B は古四尾連湖や古湖沼 A を発生させた初生地すべり移動体の二次すべりによって本流(樋田川)が堰き止められ生じたと推定される。

ところで、現四尾連湖の湖畔には、湖水面から約 1.8 - 2.0 m 高位に湖成段丘状の地形が認められる。このような地形は、かつて四尾連湖の水面高度が現在より高かったことを示唆する可能性がある。本稿執筆時点において、この地形面上で簡易ボーリングを掘削中である。回収コアの分析結果については大会会場で報告する予定である。

キーワード: 地すべり, せき止め湖沼, 湖成堆積物, 14C 年代, 後期更新世

Keywords: landslide, dammed lake, lacustrine sediments, 14C date, late Pleistocene